

■江島(屋)其磧 本屋・作家。浮世草子作者として西沢一風に勝利した後、書肆を開業して自著の出版に努めた。

えじまきせき

酒井忠清大老1666＝ 京都生、江戸時代初めより続く大仏餅屋の主人。

談林俳諧・1675＝9歳：

徳川綱吉將軍1680＝14歳：

堀田正俊暗殺1684＝18歳：

奥の細道・・・1693＝27歳：

生類憐令頂点1695＝29歳：

荻原勘定奉行1696＝30歳：浄瑠璃の作がある。

・・・・・・1699＝33歳：\*幕末・明治に至る評判記の型を定める書となる役者評判記「役者口三味線」を、

松の廊下事件1701＝35歳：\_浮世草子「けいせい色三味線」を京都の八文字屋から出し、評判記・浮世草子の作者として活躍。

赤穂浪士討入1702＝36歳：

・・・・・・1706＝40歳：好色物「風流曲三味線」刊、

徳川綱吉没・1709＝43歳：「遊女懐中洗濯」刊、

・・・・・・1710＝44歳：「野白内証鑑」「傾城伝受紙子」成る。「寛濶役者片気」刊か。\*書肆江島屋を開業し、八文字屋自笑との確執が表面化する。

冥途の飛脚・1711＝45歳：好色物「傾城禁短気」「色ひいな形」刊、

乾山陶器店・1712＝46歳：町人物「商人軍配団」,「野傾旅葛籠」「魂胆色遊懐男」「忠臣略太平記」刊、

和漢三才図会1713＝47歳：「渡世商軍談」「鎌倉武家鑑」「通俗諸分床軍談」刊、

絵島事件・・・1714＝48歳：「役者目利講」「女男色遊」「四民乗合船」「女男伊勢風流」「愛敬昔色好」刊、

国姓爺合戦・1715＝49歳：「役者反魂香」「丹波太郎物語」刊。\_「世間子息氣質」はじめ、次いで執筆した氣質物は、特異な性癖を基点とした視角をとって新しい短編編成法を開く。

徳川吉宗將軍1716＝50歳：

隅田川の桜・1717＝51歳：「役者賭双六」刊。\_「世間娘氣質」,

御蔭参流行・1718＝52歳：「和漢遊女容気」刊、

・・・・・・1719＝53歳：「武道近江八景」「義経倭軍談」刊、

洋書輸入解禁1720＝54歳：「役者三名物」刊。\*「浮世親仁形気」が主要作である。その後死没に至る20年間ほどは、歌舞伎・浄瑠璃の翻案を主とした長編の時代物の作が多い。また、八文字自笑らとの共作になっていく。

小石川薬園・1721＝55歳：其磧のみによるものとしては、「女會我兄弟鑑」「日本契情始」刊、

・・・・・・1722＝56歳：「商人家職訓」「風流七小町」刊、

火の見櫓制・1723＝57歳：「桜會我女時宗」刊、

懐徳堂公認・1726＝60歳：「出世握虎昔物語」「安倍清明白狐玉」刊、

・・・・・・1727＝61歳：「頼朝鎌倉実記」「大内裏大友真鳥」「女将門七人化粧」刊、

徂徠没・・・1728＝62歳：「開分二女桜」「本朝会稽山」「記録會我女黒船」刊、

梅岩心学始・1729＝63歳：江島其磧編・西川祐信画「絵本答話鑑」刊、「御伽平家」「風流扇子軍」刊、

・・・・・・1730＝64歳：「役者美男尽」「善悪身持扇」「世間手代氣質」「富士浅間裾野桜」「契情お国哥舞妓」刊、

・・・・・・1731＝65歳：「風流東大全」「奥州軍記」刊、

享保大飢饉・1732＝66歳：「曠太平記」「楠軍法鑑桜」「けいせい歌三味線」「咲顔福の門」刊、

・・・・・・1733＝67歳：「風流友三味線」「鬼一法眼虎の巻」「那智御山手管滝」「高砂大嶋台」「軽口独機嫌」刊、

・・・・・・1734＝68歳：「都鳥妻恋笛」「三浦大助節分寿」刊、

昆陽蕃藩考・1735＝69歳：「咲分五人口」「渡世身持談義」「風流西海硯」「略平家都遷」「愛護初冠女筆初」「真盛曲輪錦」「風流連理口」刊。\_没した。